都市地下空間活用研究会
Urban Underground Space Center of Japan
USJ NEWS LETTER
令和5（2023）年4月　No.1

名古屋地区の地下空間活用現地視察会

去る、２月２日から３日までの行程で、名古屋地区の地下空間活用現地視察会が開催されました。12月２日に開催した「第３回地下空間活用に関する研修会」（都市地下空間活用研究会並びに土木学会地下空間研究委員会計画小委員会の共催）において、名古屋地区の地下空間活用の事例を紹介いただいたこともあり、その現地を視察したものです。

名古屋地区ではリニア中央新幹線の開業に向け、名古屋駅地区ならびにその周辺の整備、更に栄地区周辺において都市の再構築が進んでおり、併せて地下空間の活用についても様々な事業や取り組みが進んでいます。そこでこの２地区の地下街を中心とした地下空間の活用と、これらの施設を守る大規模水害対策施設の工事現場を訪問させていただきました。視察会では、名古屋市 住宅都市局 街路計画課、同市 上下水道局 建設部工務課、その他地下街関係者の皆さまにご案内いただき、当会大阪分科会、地下利活用検討分科会の皆さんを中心に、総勢17名の方々が参加され、天気にも恵まれ大変貴重な視察会となりました。以下にその概要をご紹介いたします。

■名古屋市上下水道局 広川ポンプ所

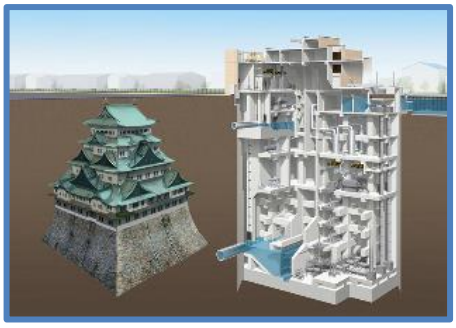
２月２日午後、名古屋市中川区広川町にある広川ポンプ所の建設工事現場を、名古屋市上下水道局 技術本部建設部工務課主査の伊藤雅大様をはじめとする方々にご案内いただき見学しました。広川ポンプ所は、名古屋中央雨水調整池などから集められてきた雨水を中川運河に排水する施設です。平成20年８月末豪雨などを受けて、名古屋駅周辺を含む中川運河上流地域および露橋地域の浸水対策として整備が進められています。排水能力は約13㎥/s、排水面積630.6haで令和６年度末の供用を目指しています。

現場事務所での事前説明

工事はニューマチックケーソン工法で進められました。施設の大きさは幅52.0m、横29.5m、深さ約65mで、その地下部分のサイズは名古屋城とほぼ同規模となっています。ニューマチックケーソン工法は、掘削を行う作業室を設けた鉄筋コンクリート製の函（ケーソン）を築造して、その作業室に地下水圧に見合う圧縮空気を送り込んで地下水の侵入を排除し、常にドライな環境で掘削・沈下を行ってケーソンを所定の深さまで沈設させて構築物を設置する工法です。現在ニューマチックケーソン工法による地下部分の構築をすでに終え、地上部分のポンプ所上屋の建築工事が進められていました。

見学では、まず工事事務所で工事概要の説明を聞きました。その後、中川運河上に設置された桟橋

の施工ヤードに向かい、現在建設中のポンプ所建屋からエレベータあるいは階段を使いポンプ設備が設置される予定のケーソン最下部まで下りていきました。そこで、着水井からポンプ井に入った中川運河上流地域の雨水が３系列のポンプに送られ、Φ1200mm の吐出管で約 50m 上方の中川運河に排水される様子の説明を受けました。また、露橋地域の雨水については地下２階程度の深さから同様に運河に排水されるとのことでした。


広川ポンプ所の規模

広川ポンプ所の桟橋施工ヤード

ケーソン最下部での説明

■伏見地下街

伏見地下街は 1957 年に開業し地下鉄東山線の線路に沿う形で地下鉄路線と同時に建設され、店舗が地下街通路の片側にしかない地下街です。地下街の全長は約 240m、面積約 2700 ㎡で、西端は地下鉄伏見駅の東改札口と直結しています。伏見駅の東側には長者町繊維街という問屋街があり、開業当初は地下街の多くの店が衣料品店だったそうです。今回は伏見地下街共同組合の事務局の方々にご案内いただきました。

2013 年のあいちトリエンナーレで伏見地下街がアート展示に活用されて以降、特徴あるイベントが多く開催されるようになっています。最近でも 2019 年の「酒と器とあなたに出会う」、2019 年の「こども国際らくがきコンクール」、2020 年の「ストリートマルシェ in 伏見」、2021 年の「伏見地下街イラストストリート」など賑わいと話題作りに努めています。現在は専ら昼から酒類を提供する立ち呑み飲食店が軒を連ね、名古屋のディープスポットとして話題となっています。

伏見地下街

イベントのチラシ

一方、築後 65 年を経て施設の老朽化は否めず補助事業を活用して防災対策を進めています。2016 年度以降に地下街防災推進計画を作成し、2017 年度から順次天井改修、壁、柱の耐震改修を計画しています。しかし自己資金の負担部分の捻出がなかなか厳しく思い通りに事業が進められないとのことでした。

■名古屋駅周辺地下街等（P5 参照）

翌２月３日午前は、まず TKP 名鉄名古屋駅カンファレンスセンターの会議室で、名古屋市住宅都市局街路計画課の澤根慶子様と(株)エスカの成澤 守様に、名古屋駅周辺地下街の概要について説明いただきました。

地下街概要の事前説明

名古屋駅は 9 路線の交差する中部圏域の一大ターミナルです。そして 1957 年に開設した名古屋地下街をはじめとして9つの地下街があります。その名古屋駅にリニア中央新幹線が2027年に開通する見込みで東京と40分で結ばれ、更に 2045 年ころには大阪と 27 分で結ばれます。リニア中央新幹線は現在の名古屋駅直角方向の地下約30mの深さに設置され、完成すると東京－名古屋－大阪に圏域人口7,000 万人のスーパーメガリージョンが完成すると言われています。これに伴って 2018 年に名古屋駅周辺交通基盤整備方針が定められ、翌 2019 年には名古屋駅駅前広場の再整備プランの中間取りまとめがあり、現在着々とこの事業が進んでいます。

視察はまず名古屋駅の東側エリア 2F デッキおよび地上から駅前広場の様子を視察しました。続いて JR ゲートタワーの地下通路を歩き地下街接続を見て、13F・15F に上りリニア函体工事の現場状況を遠望しました。再び JP タワーの 2F 民地内通路を歩き、更に地下に降りてルーセントアベニュー、JR ゲートタワーの B1 民地内通路を見学しました。

リニア中央新幹線名古屋駅東側

名古屋市の地下空間は、名古屋駅地区及び栄地区において、設置年代の異なる複数の地下街・地下駅・ビル地下階等が連担し面的に広がっています。そのため防災上のリスクが高く、2001 年に地下街に関する国の通達が全て廃止されて以降、「名古屋市地下街基本方針」を制定し、これを 2016 年には改定して、地下空間の安全を確保してきました。

地下街接続の視察は、ダイナード、大名古屋ビルヂング、ユニモール、名古屋ビル、ミッドランドスクエアとそれぞれ特徴ある様子を、説明を伺いながら視察しました。また併せて撤去したモニュメント「飛翔」下の地下広場も見学しました。更に複数のビルの地下階を結んだメグルメガーデンを通り、ミヤコ地下街、キタチカ（旧新名フード地下街）など地下鉄東山線の地下 1F 部分の地下街を歩き、スパイラルタワーズ、名古屋三井ビルディング北館の地下街接続に立ち寄って、地下鉄東山線の地下 1F 部分のサンロードと今後の再開発が待たれる名鉄バスターミナルビル等との地下街接続を経てゲートウォークに戻ってきました。

大名古屋ビルヂングとダイナードの接続部

名古屋ビルとユニモールの接続部

ミッドランドスクエアとサンロードの接続部

午前の最後は、名古屋駅の東西通路予定地付近である JR 広小路口から、駅ビルの一部でもあるファッションワンを通り、西側エリアのエスカ B1・B2 に入りました。エスカでは地下街防災推進事業の内容やロボットによる警備・清掃などの実証実験の様子を聞き、この後、参加者の皆さんはそれぞれエスカの飲食店で昼食をとりました。

地下街　エスカ

エスカ駐車場の炭素繊維巻き耐震補強

ロボットの自動運転
試験(2020 年７月)

■栄周辺地下街等（P5 参照）

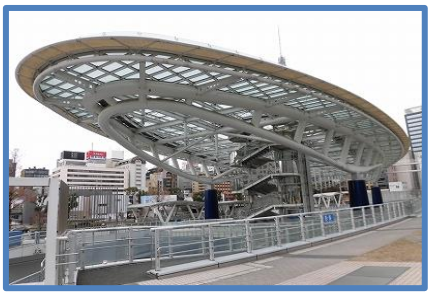
午後は名古屋駅から地下鉄桜通線に乗り久屋大通駅で下車、セントラルパークに面したアーバンネット名古屋ネクスタビル、アーバンネット名古屋ビルとセントラルパーク地下街との接続状況を視察しました。その後いったん地上に上がり久屋大通公園の中部電力ミライタワー北側エリアで地上の位置関係を確認した後、再びセントラルパーク地下街のテレビ塔真下の部分の様子を見学しました。

久屋大通駅周辺の地下空間の立体模型

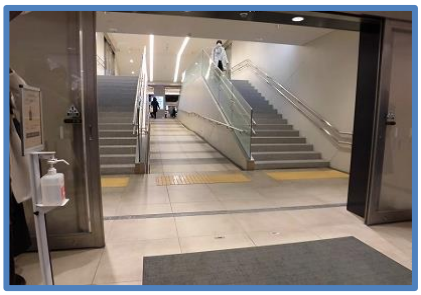
セントラルパークとアー
バンネット名古屋ビルの
接続部

セントラルパーク

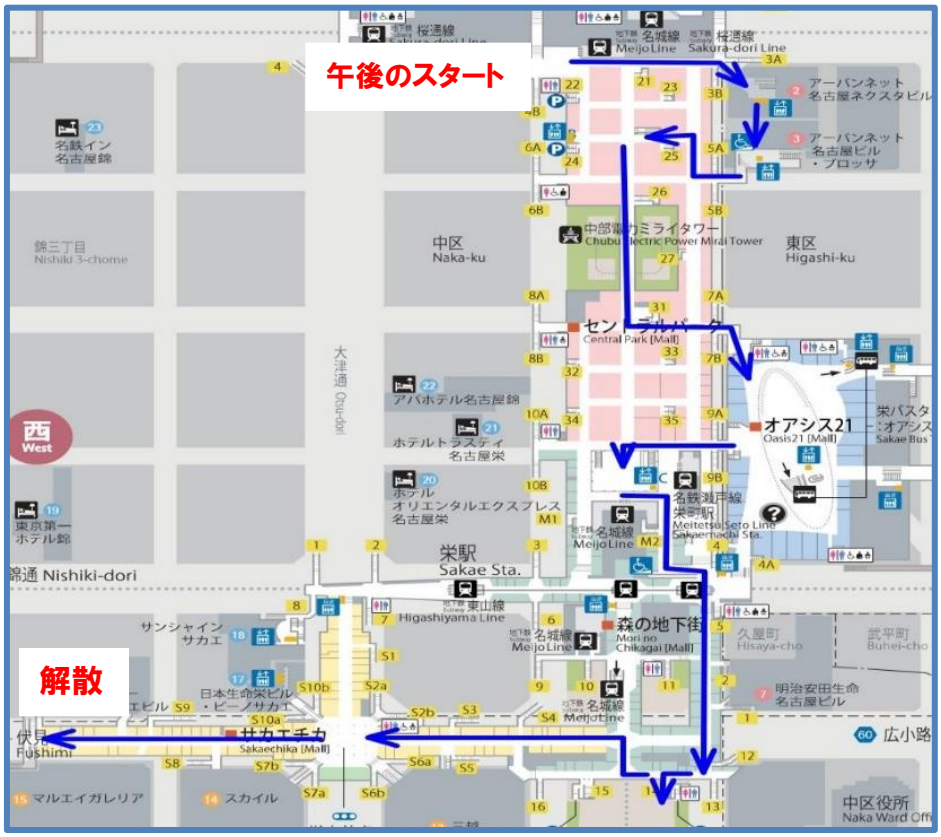
栄地区の新しいシンボルとなったオアシス 21 は、公園やバスターミナルなどの公共施設と商業施設との複合施設で 2002 年にオープンしました。このオアシス２１はセントラルパーク地下街と接続して一体感ある構造となっており、地下街に開放的な雰囲気を生み出しています。再び地下街に戻り久屋大通公園のテレビ塔南側エリアにはメディアヒロバがあり、ここから地下街は近年リニューアルした森の地下街へと繋がります。ここで現在工事中の中日ビルの地下街接続を見た後、サカエチカに入り栄交差点下のクリスタル広場を視察しました。更にビーノ栄との地下街接続、旧丸栄と地下街との接続状況を見て、マルエイガレリア付近の広小路通りの歩道上で全ての行程を終え解散しました。


オアシス 21

クリスタル広場


クリスタル広場とビーノ栄との
地下街接続

２月３日の名古屋駅周辺地下街等の見学ルート



２月３日の栄周辺地下街等の見学ルート